

鯖街道 熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県三方上中郡若狭町熊川
TEL/FAX (0770) 62-0330



整備が完成した上ノ町の町並み(平成17年11月撮影)

熊川宿景観整備の完成

平成十一年に県道部に当たる中ノ町の景観整備が県事業として完了して以来、残された両側の町道部の下ノ町と上ノ町の整備が、住民や訪れる方々により待望されておりました。

そして、この声に応えるべく、平成十四年度から熊川全域の景観整備を貫徹させるための町道部の整備が始まりました。

その工事は、下ノ町を十四、十五年度で、また上ノ町を十六、十七年度で行うこととなったわけです。

この計画は、四年間という長期の大工事でありましたが、昨年の国民文化祭熊川いっぶく時代村の開催前に、立派に完成していただくことができました。

これからは、熊川の持続可能なまちづくりを、区民がより一層心を一つにして進めていかなければならないと思います。

目次

熊川宿	1
寄稿文	2
国文祭ふくい2005	3
寄稿文・活動報告	4・5
活動報告・お知らせ	6

熊川宿に思う私の気持ち

若狭町長 千田 千代和

明けましておめでとございます。輝かしい新春をご家族お揃いでお健やかに迎えになられましたこと心よりお慶び申し上げます。

さて歴史と伝統ある熊川宿をゆつくり散策してみますと、大きな問屋が軒をそろえ往時をしのぶことができます。鯖街道を利用して京都へといろんな物資が運ばれ、多くの人々が往来したのであるうにぎやかな宿場町として栄えた面影が、今もその姿を残しています。

美しくなった熊川宿。ここまでたどりつくまでには多くの苦勞もあつたであろうと思います。

熊川区民の皆様方のご理解ご協力、多くの合意形成を図るための会議、その結晶が平成八年の文化庁『伝統的建造物群保存地区』の選定へと結びついたものと思いません。その後文化庁、福井県の支援を受け町並み保存整備に取りかかり、電柱は姿を消し道路は地道風に舗装され前川の水路はきれいに石積みされ下ノ町、中ノ町、上ノ町が美しく癒しの空間として様変わり致しました。私はここまで真

剣に取り組まれた方々に心から敬意を表したいと思っております。

熊川宿はこの若狭町の玄関口であり、大阪、京都の皆さんがお越しになる最初の交流の場でもあります。ここを発信源に、人のやさしさ、人の心の清らかさ、人の心のぬくもりを感じることが出来る熊川宿であつてほしいと願っています。

若狭町のすばらしい財産である熊川宿、瓜割名水、国指定の古墳、それに三方五湖、それぞれ「水」をテーマとした観光誘客を期待致しております。

加えて三方五湖がラムサール条約の登録により世界的に認められましたことを機会に環境保全の町を宣言したく考えておりますので、



国民文化祭ふくい2005 熊川宿にて

多くの皆様方のご支援ご協力をお願い致します。

終わりにになりましたが、寒さ一段と厳しくなっております。皆様のご自愛をお祈り申し上げます。若狭町発展のためお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

~~~~~

## この一年を振り返って

熊川宿町並み相談委員 宮田 勝 美

当初より熊川宿の修理・修景工事に関わられていた柴田純男さんの計報が入ったのは、一昨年の九月のことでした。柴田さんには、日頃、

建築士会であいへんお世話になっておりました。放生祭りの時に、祭りと小浜の町並みを案内して頂いた時の柴田さんの笑顔が、今でも思い出されます。

その後、福井大学の福井宇洋先生のご紹介により、柴田さんの仕事を引き継いでさせて頂くことになりました。

この一年間で、愛媛県の内子町、徳島県の脇町、滋賀県の五個荘、岐阜県の高山と白川郷、鳥取県の

倉吉と六つの重要伝統的建造物群保存地区を見て回り、熊川では二つの物件を担当させて頂きました。

最初の仕事となった覚成寺さんの屋根の修理では、小屋裏に使われている木材の多くが、古材の再利用であったり、適材適所に無駄なく材料が使われていたり、昔の人の建物や材料に対する思いが伝わって来る様でした。

日頃、地域に根ざした仕事をしたいと思っている私にとって、古い建物の修理は、たいへん興味深くまた、勉強となるものです。

日々の設計の仕事に追われ、じっくりと材料や構法について考える余裕がなかった中で、この熊川での修理・修景の仕事は、私にとっても、たいへん重要な仕事であると思っております。行動力があがり、何事に対しても熱心であった柴田さんには到底及びませんが、熊川の町並みが、そこに住む人たちや訪れる人たちに、安らぎを与えてくれる様な場となることを願って、今後頑張りたいと思っております。





橋のくから ふくらむ文化 羽ばたく未来

# 国民文化祭・ふくい2005 越前・若狭 食の祭典 鯖街道

鯖川いっぶく時代村 同時開催

と き：平成17年 **10月30日**

と ころ：権井原若狭町 熊川宿・道の駅「若狭熊川宿」

第20回国民文化祭若狭町実行委員会・熊川区

晴天に恵まれ、多くの方にお越しいただき、大盛況のうちに終えることができました。  
賑わった一日を、スナップ写真でまとめてみました。



## 帰郷二年

男 嘉 泉

私は戦時中（昭和十九年）祖父母のもとで熊川国民学校に通学していたこともあり、昭和三十四年から四十四年まで十年間、現在地にて菓子製造販売業をしていました。時代の流れにより熊川も寂れて人口が減少し生活が成り立たず故郷をあとに京都に出たのですが、地域の人々の心温かい気持ち私共家族にも伝わり、三年前帰郷することに決心し、古里の熊川に帰ってきました。

環境も空気もよく毎日をのんびりと過ごさせて頂いています。私



上ノ町の町並み

の家屋の保存に対しても悩みました。祖先様には申し訳なかったのですが、二十五年間空家であったため、家の傷みが激しく解体する計画でしたが、教育委員会の方々また保存会の方々から改築のお話を頂き改修することが出来、心から喜んでいきます。

熊川の地域に古来より語り継がれた歴史・文化の足跡をしるす古き街道、老松の並木は戦時中にてその影も消え、舗装されて小石も見えず、新道が出来、車の往来激しいこの時代の中、熊川宿の保存に一生懸命携わられた人々のご苦労がよくわかります。

熊川宿景観整備工事も完成して一層すばらしい美しい熊川宿になりました。今後は美化運動を忘れず、一人一人が協力してより一層すばらしい環境と美しい熊川宿を残していくことです。

次の世代のために、熊川宿を見学に来て四季に亘り楽しめるような風景を作ることよいためではないでしょうか。産業の発展にも繋がっていくものと思います。

食文化の進んだ今日、昔ながらの工程では現代の人には好まれず近代的に考えるべきではないのでしょうか。研究と工夫が必要と思

## 「熊川宿景観整備完成」

—— 思いつづるままに

山田武男

この度の上ノ町で、下・中・上ノ町の全地域の景観整備が完成したと言われております。

多くの住民の皆さんは大変きれいになったと喜んでおられ、また、観光で訪れる方は「素晴らしい町並みだ」と感嘆されておられます。町の様子も確かに変わりつつあるようです。

どの家庭も家の前を花で飾ったり、土・日曜日は多くの観光客で賑わい、商売も活発になってきました。自主学級では自分たちの町の歴史をもう一度勉強しようとする子どもから大人まで多くの皆さんが散策し勉強されました。多くの皆さんの声で「熊川宿まちづくり憲章」も出来ました。心豊かな人間形成には環境が大切だといわれています。

が、今ここに改めて重伝建の選定を受けてよかった。間違いではないかと、一段と強い思いをいたしますのは私だけではしょうか？

しかし、このような美しい町並みに蘇りましたのも、最初、不安の中、選定の道へと決断された区民の皆様は勿論のことですが、このような素晴らしい財産を残して下さった先人の方たち、また、各関係の方たちのご指導、ご苦労がありましたことを忘れてはならないと思います。

今後、また、各家屋の修景等が進み、益々素晴らしい町並みへと発展する事と思いますが、将来、是非ともユネスコ「世界遺産」に登録される事を願っております。

最後に私現在、委員として下ノ町、西口公園の清掃くらいしか出来ませんが頑張りたいと思っております。

います。

最後に私たちの祖先の歩んだ歴史を学ぶと共に、現在の繁栄は祖先の労苦の上にあることと思

光さやめく熊川宿に今一層の愛着心とほこりを持ち、次の世代に伝えていきたいものです。

## 若州熊川道案内

宮川良平

西口公園までは、赤い鳥居をくぐっての下り道、京都・伏見稲荷を連想する道程です。

二千XX年十月十六日、今日は松木神社例祭の日です。三年前より営業運転しております琵琶湖若狭湾快速鉄道で、熊川駅に降り立った近郷近在の人々でこった返しております。私たちの敬愛します義民松木庄左衛門の遺徳を偲び、米、大豆等を持ってのお参りです。松木神社の参道には、所狭しと店が並んでおり、ここでの人気土産は、大豆を加工した商品がやはり一番の売れ行きです。

境内では、庄左衛門の生涯を題材に素人劇団による舞台が満員の観客の中行われております。農民への過酷な年貢の軽減に命を掛けた庄左衛門に涙する人々であります。松木神社から西山稲荷へは遊歩道があり、森林浴を楽しみながらの散策道となっております。特に紅葉時には、モミジのアーチが心をいやしてくれる事でしょう。カエデ、イチヨウが秋の夕日に映えています。

西山稲荷で太鼓を打ち、御神酒を頂き一休み。

下ノ町西口公園では水車が回り、ソバ粉を碾いています。打ちたてのソバ粉でソバ打ち体験、自分で打ったソバの味は格別だと喜ばれています。

中ノ町では、松木神社、白石神社、熊川城跡への散策道がお勧めです。熊川城での殿様気分は如何でしょうか？茶の味は甘露だと言われています。是非茶の湯を立てて下さい。

次に上ノ町の案内をさせてもらいます。以前から好評の時代行列にチャレンジして下さい。時代劇衣装を身に付けて町並みを散策して下さい。きつと楽しめますよ。また、番所では取り調べがあります。あなたは無事通れますか？無事を祈ります。

是非熊川宿へおいでやす。追伸

過疎化、高齢化に悩んでいた熊川でしたが、平成八年に国の伝建保存地区に選定を受けてからは、日に日に活力ある自立した明るいまちづくりを目指し今日に至っております。熊川小学校児童数も三

百人弱となりました。最後に我が家は怎么样了？寄つてみましょう。店先には大きなのれんが掛かっています。味処・元祖若州そば若州亭一休。この店が我が家です。大いに繁盛したと聞いています。

## 町並み散歩

・羊洗いの流れに  
こころごと  
・かわとから今日も元気が  
おばあちゃん  
・肩に降る小春日和の山紅葉  
功

ご案内

## 熊川宿まちづくり総集會が開かれます。

と き：平成18年2月11日(祝・土)午後2時～

と ころ：熊川児童館(中ノ町)

千田千代和町長をお招きします。語り部の方のお話や熊川宿の近況など、年に一度の和やかな会合です。多数お集まり下さい。



8/15

## 盆雷の納涼盆踊り

あいにくの天候でしたが恒例の盆踊りが行われました。外では金魚すくいや焼きそばのバザーが、熊川児童館内では流行踊り、てっせん踊り、お楽しみ抽選会と続きました。時間の関係で熊川音頭は踊られず、少々残念でした。



7/30

## あす県リーダー研修會

「みんなで創る住みよいコミュニティ」の指定を受け、あすの福井県を創る協会が開いたリーダー研修會に出席しました。「わがふるさとを考える」をテーマに、地域づくりアドバナーの木下美恵子先生のご指導で、KJ法という意見の出し方、まとめ方を学び実践しました。

活動報告(平成17年7月)



10/31

### 間宮さん一行を歓迎

三月に「鎌倉発ソウルまで」の徒歩の旅を実現された間宮武美さん一行が再び来訪されました。今回は韓国の水産加工会社代表の柳泳東(ユウキョウ)さんたち十名でお見えになり、日韓両国の鯖街道を話題に盛り上がりしました。



9/23

### 白石神社境内を清掃

まちづくり委員会と神社部会のメンバーが竹ぼうきや熊手、ビニールシートを持ち寄って、境内に長年堆積した落ち葉や土を取り除きました。  
二時間ほどで境内は大変きれいになりました。



9/17

### 今庄宿へ研修(文書の里の会)

木之本から栃ノ木峠を経て、木ノ芽峠の前川家を見学、歴史あるお話を聞きしました。  
街道浪漫開催中の今庄宿では、羽根曾踊りの子どもたちがとても可愛かったです。  
熊川宿のてっせん踊りも、ぜひ若い人たちに踊り継がれてほしいものです。



12/11

### 縄文学講座でてっせん踊り

(熊川宿伝統芸能保存会)

大和朝廷に食料を献上していた一族の膳臣(トナリ)について学ぶ講座で、てっせん踊りの「事始め」を披露しました。  
蔵かで優雅な踊りに、都の文化に思いを馳せ、心やすらぐひとときでした。



11/21

### 京都東寺骨董市へ(つる細工の会)

東寺駅に降りたとたん、あふれるような人の波。熊川ならどここの家にも転がっているような物に手を出す人、タンスの中に眠っている着物がモダンな服となって並んでいます。  
アイデア次第で魅力さえあれば人は集まります。私にも何か出来そうな、元気づけられた一日でした。



11/5

### 高月町で広報紙サミット

滋賀県や福井県など約十団体から持ち寄った広報紙を紹介しあい、編集の悩みや苦労話をお聞きしました。  
午後からは、中日新聞大津支局長栗林茂氏より「広報紙づくりのコツ」と題して、具体的な指導がありました。

### ちょっとお知らせ 熊川宿掲載誌ご紹介



### あとがき

- ◇十二月としては記録的な大雪に見舞われ、熊川宿も雪景色の年明けとなりました。平成十八年新巻、ここに町並み通信「熊川宿」第十二号をお届けいたします。
- ◇多くのご要望にお応えして昨年夏、宿場館に無料貸しロッカーが設置されました。荷物を預けてゆっくり町並みを散策していただくことができ、レンタサイクルとともに大変好評です。
- ◇北陸コカコーラ、四季彩館、若狭町教育委員会のご協力で、熊川宿の町並みや山車巡行の様子をプリントした自販機が道の駅「若狭熊川宿」にお目見えしました。多くの人の目に止まり、熊川宿のPRになることでしょう。
- ◇町並み通信「熊川宿」が、あすの福井県を創る協会の県ふるさとづくり広報紙コンクールで優秀賞(農町村会長賞)に入賞しました。皆さんのご寄稿、ご協力の賜と感謝しています。

### ◎宿場町を流喫する(学研)

グラフィック資料「日本の町並み」シリーズの別冊で、6ページに亘り写真を交えわかりやすく解説されています。

### ◎旅の手帖 9月号(交通新聞社)

「古道をゆく」と題して、朽木とともに4ページに亘り紹介されました。